

広報広聴委員会行政視察報告

日 程：平成 30 年 2 月 1 日（木）～2 日（金）

参加者：北林委員長、玉川副委員長、岩崎委員、中川委員、貞岩委員、重光委員、加根委員、
宮川委員、乗越委員、事務局随員 2 名

●兵庫県宝塚市

【人 口】 225,010 人 【面 積】 101.89 k m²

◆調査事項：議会報告会・意見交換会について

・議会報告会及び意見交換会について

1 議会報告会について

- (1) 初開催 平成 23 年 8 月
- (2) 開催頻度 毎定例会ごと（年 4 回） ※平成 27 年度は年 2 回の実施
- (3) 開催回数 25 回（52 会場）
- (4) 参加者数 延べ 966 人（平成 30 年 1 月現在）
1 回あたり平均 38.64 人
1 会場あたり平均 18.58 人

(5) 参加グループ

・編成方法

全議員（定数 26 人 現 24 人）を 12 人ずつ 2 つのグループに分け、1 グループにつき年 2 回の参加。

・編成方針

- ① 常任委員会及び会派等のバランスに配慮する。
- ② 議長、副議長は 1 グループに偏らないようにする。
- ③ 各常任委員会の委員長、副委員長は 1 グループに偏らないようにする。
- ④ 広報広聴委員会委員を、各グループに分散する。

(6) 告知方法

- ・市議会だより
- ・市議会ホームページ、市議会 Facebook
- ・市広報紙
- ・チラシ配布（市議会、市公共施設、街頭配布）
- ・ポスター掲示（市広報板、市役所内掲示板）
- ・エフエム宝塚

(7) 課題

- ・議会報告会の参加者が減少傾向にある。
- ・議会報告会の結果報告の公表ができていない。
- ・報告の仕方に工夫が必要である。（プロジェクターの活用等）
- ・年 4 回（参加回数 2 回）の開催のため、議員の負担が大きい。

2 意見交換会について

(1) 初開催 平成 26 年 7 月 13 日（日）午後 2 時～午後 4 時

開催回数 延べ 6 回

(2) 第 6 回(最新回)開催状況

・開催日時 平成 29 年 8 月 27 日（日）午前 10 時～午後 4 時 15 分

・場所 市立男女共同参画センター

・テーマ 第 1 部 市行政施策の計画・評価、シティプロモーション、公共用地・公共施設、ICT（情報通信技術）、財政・行財政改革、市税、情報公開、人権・平和・男女共同参画などについて

（午前 10 時から 11 時 45 分）

第 2 部 医療・健康について（午後 0 時 30 分～2 時 15 分）

第 3 部 北部（西谷地域）の活性化について、農林業施策について

（午後 2 時 30 分～4 時 15 分）

(3) 参加者

・市民発言者 8 人（1 部：4 人、2 部：1 人、3 部：3 人）

・市民傍聴者 58 人、議員 26 人（全議員）、事務局 8 人

(4) 実施形態

・3 部制（全議員を常任委員会ごとの 3 班に分け、各部を順次開催）

(5) 課題

・3 つのテーマで公募したが、応募者が少なく、テーマによって偏りがあった。意見交換会のテーマは、市民が議員と意見交換したいと思うようなテーマになっているのか。

・参加者アンケートにおいて、性別欄に自認する男女の性別のほか、男女のどちらにも属さない性として「その他」の項目を設けてほしいとの要望が寄せられた。今回の要望も含め、アンケートは市民ニーズを分析できているのか。

・高校生や大学生など、これからの社会を担う若い世代との意見交換ができていない。こちらから出向いてもよいのでは。

3 委員との質疑応答

Q. 意見交換会について、資料をみると「テーマと発言したいことが違う」という意見があったとのことだが、現在、貴市が実施されている形式は市民にとってはハードルが高いという印象がある。市民からはどのような意見があるのか。

A. 意見交換会については、発言されたい方を公募しているが、これだと発言者が固定化され、ハードルが高くなってしまおうという印象がある。



宝塚市議会での視察風景

Q. 市民の意見から、議会による執行部への政策提案にまで至ったような事例はあるのか。

A. 今のところ、そうした事例はない。

Q. 議会報告会・意見交換会について、広報はどのように実施しているのか

A. 市議会日より、市の広報紙、FM放送、公共施設へのチラシ配布のほかに、駅前で議員自らチラシ配布等を行った。

◆委員の感想

- ・平成23年4月に施行された「宝塚市議会基本条例」によって同市議会の議会改革が進められるなか、今回の視察では、議会報告会、意見交換会について学ばせていただいた。まず、議会報告会については、年4回の定例会終了後、定例会で審議された議案の内容や結果について、市民の皆さんに報告という形でお知らせし、質疑も行うということであった。開催場所や時間については、長い間に市内3カ所で午後7時からということに落ち着き、報告会が終わらないと定例会が終了しないといった認識が出来上がっていることから、この報告会が議員にも市民にも定着している状況が読み取れた。その一方で、参加者の減少傾向という課題もあるようで、今後の対応について参考にさせていただきたいものである。意見交換会については、本市同様、常任委員会ごとに開催されている。毎回、テーマの決定に苦慮されているとのことであり、その決定過程については、本市としても大いに参考にすべきと思われる。
- ・議会報告会は、議案の審査経過しか報告していないとのことで、定例会毎に詳細な委員会報告書を作成し、それに基づいて、定例会終了後に開催しているが、議員の労力が過重になっている割には参加者が少なく市民が喜んでいないのは残念な気がした。
- ・定例会ごとに報告会を行っているので、議会の内容が市民にタイムリーに報告されることはとても良いと感じた。資料作成は議会事務局が行っているとの事であったので、事務局員数を確認すると、東広島事務局と同数であったことに驚いた。業務内容を詳しく聞かないと分からないが、事務局の苦勞が伺えた。意見交換会はテーマを定めるときは、各常任委員会で決定しているようで、本市とそれほど変わらないと感じた。若い方の参加者確保のため、一時保育も取り入れているのは今後の参考になった。議会報告会を行う時間帯は、昼間が多い。前回市民経済委員会が午後3時から開催し、参加者が最多であったことから、平日夜の開催は一般的に参加にくい傾向にあるのかもしれないと感じた。ただ、現役世代（若い方）の方は参加できない時間帯なので、若い方の参加に対しての検討が必要。宝塚市は議場コンサートを開催することで、議会と市民との距離が近くなると感じた。
- ・議会報告会を毎定例会ごとに開催されていた。1会場当たりの平均は18.58人と、東広島市の現状より少し多い数字ではあるが、課題として議会報告会の参加者減少や報告の仕方に工夫が必要と感じた。また、議員の負担が大きいなど、本市議会と同じような課題を抱えていることが解った。また、意見交換会においては、テーマを絞り行われており市民傍聴者の数も多く、一定の成果が有るように感じた。
- ・定例会毎に作成される「委員会報告書」は大変わかりやすく構成されており、宝塚市民にも好評であることが納得できる。本市も参考とすべきと思う。
意見交換会について、事前に発言内容を提出してもらうため、議会側が準備をしやすい。この件についても本市は参考とすべきと思う。

- ・議員一人ひとりが、積極的に報告会・意見交換会の案内をされていることは、我々東広島市議会もしっかり参考にし、行動すべきと感じた。報告会資料の内容で、質疑の概要を整理されていることについては、大いに参考になった。ただし東広島市議会の議会日程や事務局体制について検討する必要がある。
- ・議会報告会の参加者が少なくなっていることは、大きな課題だとこのことで、どの議会でも同じ思いだと感じた。したがって、議員の課題も大きい。また、議会報告会が終わらない限り、定例会が終わったように思えないとのことで、苦労が見えるように感じた。意見交換会については、本会議場を使って行っている事例があるとのことで、本市も行っていいと感じた。資料の作成については議会事務局で行っているとのことだが、事務局は大変な苦労をされているように感じた。また、参加者については、地域的な温度差があるため、参加人数が大きく違っているため、各地域に合った内容にする必要を感じた。
- ・宝塚市において議会報告会における人員集客を図るための告知方法としてポスター掲示（市広報板、市役所内掲示板）やFM放送等まだまだ告知の方法はあることを再認識し、我々広報広聴委員会でも検討したい。次に意見交換会については、テーマを決め発言者を公募している方式に一考の価値があるのではないかと感じた。
- ・4回の定例会終了後に、間をおかず、定例会での審議内容等を資料にまとめ、報告会を実施するスピーディさに驚いた。そのスピード感には感心するところであるが、その内容は市民ニーズに合っているのかという視点から疑問を感じた。というのも、議会報告会、市民にとって「学びの場」であると考えるので、市民ニーズの高いものをテーマにして、それを学べる場にするのが良いと考えるからである。意見交換会については、本会議場を会場に実施する取り組みは大変ユニークと感じた。

●石川県加賀市

【人 口】 68,336 人 【面 積】 305.87 k m²

◆調査事項：議会報告会について・意見交換会について・議会だよりモニター 員制度について・子ども議会・高校生議会・女性議会について

・議会報告会について

1 開催状況

開催年度	地区数	参加者数
平成 23 年度	3 地区	126 人
平成 24 年度	20 地区	888 人
平成 25 年度	6 地区	290 人
平成 26 年度	21 地区	841 人
平成 27 年度	1 箇所	87 人
平成 28 年度	11 地区	347 人
平成 29 年度	10 地区	376 人
	延べ	2,955 人

2 体制について

- ・ 3 班体制（正副議長を除く）
- ・ 班長、司会、報告、受付などを役割分担
- ・ 会場準備・地元交渉は全員で実施
- ・ 意見は所管委員会で調査



加賀市における視察風景

・意見交換会について

1 『高校生との意見交換会』について

(1) 開催日：平成 29 年 1 月 30 日

(2) 開催形式

- ・ 市内実業高校で開催 ⇒「卒業生のほとんどが市内企業に就職する」ため、学校から議会へ申し入れがなされ、開催することが決定された。

- ・ 6 グループに分けて意見交換

(3) テーマ

- ・ 市の活性化、少子化対策

(4) 参加議員の感想

- ・ 高校生と意見交換を行ったが、想像以上の様々な視点でものを考えているという印象で、非常に有意義であった。

・子ども議会、高校生議会、女性議会について

1 「開かれた議会 市民が参加する議会」への取り組みについて

(1) 子ども議会等の開催

- ①平成 24 年 1 月 29 日（日）小学生
- ②平成 26 年 8 月 1 日（金）中学生
- ③平成 29 年 8 月 9 日（水）高校生

(2) 女性議会

- ①平成 23 年 10 月 24 日 ⇒ 市長も参加して開催
- ②平成 27 年 10 月 21 日 ⇒ 意見交換会形式で開催
- ③平成 28 年 10 月 26 日 ⇒ 参加者 9 名が本会議場で議会に対して質問

※議会の基本的な事項について質問される場合もあり、「議会のことを知ってもらえる」機会になっている。

(3) その他

- ・市内小学生による議会傍聴

⇒議長名で、年度当初に市内各小学校へ呼びかけを行っている。

年度	校数	児童数
平成 2 3 年	1 0 小学校	2 2 3 人
平成 2 4 年	6 小学校	1 2 0 人
平成 2 5 年	4 小学校	1 4 6 人
平成 2 6 年	4 小学校	5 4 人
平成 2 7 年	2 小学校	3 7 人
平成 2 8 年	4 小学校	1 8 8 人

・議会だよりモニター員について

1 制度について

- (1) 開始：平成 28 年 4 月～
- (2) 人数：10 人
- (3) モニター内容

デザインや紙面構成について、意見や提案を出してもらう。

- (4) 提案・意見の取扱

議会活性化特別委員会広報部会において、紙面の改善改良を検討。

⇒平成 29 年度から、議会だよりの紙面構成について、12 ページから 16 ページを増やした。

・委員との質疑応答

Q. 議会報告会の参観者が 1 会場 3 0 人ほどは多いと考える。市民の報告会への感じ方はどのようなものか。

A. 参加した方からは、「参加してよかった。」という感想をもらう。ただ、参加してもらうきっかけをどの様にすべきかが課題である。

Q. 議会報告会での報告内容はどのようなものか。

A. 全体でパワーポイント 20 シート程度。そのうち、3 シートでメインの報告テーマについて記載している。報告時間は 30 分間で、メインテーマは 10 分程度。詳細については資料を渡している。

Q. 子ども議会などの開催サイクルは決まっているのか。

A. 開催サイクルは、特に決まっていはいない。開催の経緯は、当時の議長から議会改革の一環として開催希望があったもの。

また、女性議会は女性団体からの声掛けに応じる形で、開催したものである。

Q. 議会だよりモニター員からの指摘について、どのような内容があるのか。

A. 内容としては「字が小さい」とか「写真が少ない」とか内容についての基本的な事項について指摘を受けている。

Q. 議会だよりモニター員の選出方法はどのようにしているのか。

A. 地域、団体からの推薦がほとんどである。

◆委員の感想

- ・加賀市議会の姿勢として、「開かれた議会」「監視する議会」「審議する議会」「政策提案する議会」「市民が参加する議会」といった 5 本の柱を掲げ、平成 23 年 4 月以来、様々な議会改革の取り組みを展開しておられる。例えば、議会の会議は原則公開とし、委員会等の傍聴は自由であり、傍聴者に資料提供するなど、「開かれた議会」の取り組みとして大いに評価されるべきものである。その一環として行われている傍聴受付簿の廃止については驚くべきものであった。議会のホームページを見やすくし、facebook をはじめ、議会だよりの改善等、とにかく議会を理解いただくためには何でも行うといった方向性は大いに参考にすべきと思われる。その他、小学生の議会傍聴、子ども議会、高校生との意見交換会等若年層への議会 PR を積極的に行い、将来の有権者に政治への関心を高めてもらうこととしている。さらに女性議会の開催も行い、その流れを確実なものにしていくなど、大いに参考にしていきたいものである。
- ・加賀市議会では議会報告会を小学校区単位で実施されているとのこと、さらに委員は各常任委員会から選出され、21 地区を 2 年かけて回ったとのことであった。この小学校区あるいは中学校区単位での議会報告会の実施というのは、本市においても考えてもよいのではないかと思う。また、意見交換のテーマは各常任委員会から提出、全議員が同じテーマで意見交換を行っていることには興味をもった。
- ・市議会の日程案内を地区会館、図書館、浴場に掲示している点は本市も参考にすべきと思う。本市では小学生を対象とした子ども議会を過去に実施した経緯はあるものの、その後の進展は見られない状況であるが、加賀市においては小学生のみならず中学生・高校生さらには女性議会などと市民の議会への関心度アップの取り組みを積極的に行っており、見習うべきと思う。

- ・子ども議会及び高校生議会を開催しており、子供たちが市政に興味を持ってもらう事は大変意義深いものであると思う。また、この事により親世代への影響が有ることも考えられるので有意義な事業であるとする。本市議会においても定例的に子ども議会などに取り組むことが有効策であるとする。
- ・議会だよりの改善として、文字を大きくしたり、一般質問の質問・答弁のみでなく議員の意見、質問に対する想いを追記するのはとても良いと感じた。(宝塚市も同様)モニター員からの要望との事であったので、本市もモニター員を設置すると良いと感じた。また、宝塚市も同様であったが、12月定例会の内容が2月1日というのは、タイムリーで本市も発行タイミングを早める努力が必要と強く感じた。議会だよりのページ数が16ページとなっていたが、内容とすれば十分なものであると感じた。(宝塚市も同様)発行タイミングを早めるためにも、内容を含めページ数の検討が必要と感じた。小学校、中学校、高校生を対象とした子ども議会や、女性議会を開催する事は、若い世代に議会を知ってもらう上で有意義なことであると共に、同伴される先生や、家族といった方にも知ってもらえるので相乗効果を期待できると感じた。議会報告会は3班体制で行って、各委員会から数名ずつで行っているということで良い方法と感じたが、本市は委員会ごとの編成で暫くは報告会を行い、必要であれば再編を考えればよいと感じた。議会報告会の開催周知方法として、他部局へも依頼しポスター貼り付け等を支所や地域センターなどへ張り付けてもらうことは良い方法であると感じた。
- ・日本一の議会を目指して「何かをしなければ発信不可」のキャッチフレーズのもと、議会報告会・意見交換会・子ども議会・高校生議会・女性議会・議会だよりのモニター員制度・条例制定・議会PPDCAサイクルの導入等さまざまな活動・行動をされていることを東広島市議会もしっかり参考にし、活動・行動をすべきであると思う。
- ・議会報告会については、市民からの質問に対しての取扱は委員会で集約し、議長に報告することだった。また、21地区にはしっかり答えを返しているとのことだった。21地区の報告会は2年かけての取り組みであるが、辛抱強く行っていることが分かる。また小学生の傍聴について毎年取り組みを行っているとのことで、本市でもこれを参考にして取り組みを行っていくべきと感じた。高校生議会の取り組みについても大変参考になった。また、議会だよりのモニター員制度を導入しているとのことで、こうした取り組みの結果、議会アンケートで議会への関心と評価が上がってきているとのことだった。
- ・市内21小学校区を2年で回るペースで開催している議会報告会は、1会場平均30名以上と参加者も多く、参加された市民からは好評であるとのことであった。議会側からの報告は当年度の主要事業についてテーマを絞って説明しているが、市民からの要望で極力短くし、意見交換の時間を長く取っているとのことで、市民は報告を聞くより、自分たちが感じている課題を言いたいのだと思われる。議会改革度ランキング第4位だけあって、傍聴可能な会議をポスターにして掲示したり、子ども議会、女性議会を開催したり、議会からの政策提案も活発で、非常に参考になった。
- ・加賀市では、様々な取り組みを行っており、大変参考になった点も数多くあった。議会報告

会のためのチームを3つ編成し、それぞれに3常任委員会の委員が入るようにしている点は評価できる点である。しかし、半年前からの準備という点で、その難しさも感じた。ただ、「開かれた議会」のまさに先進地であり、議員提案や委員会提案の条例等が多い点は、学ぶべきものが多いと感じた。